

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

尾鷲市地域公共交通活性化協議会

平成20年5月28日設置

令和2年6月12日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
利用者に対し定期的にアンケートを実施し、利用者ニーズの把握に努めており、そのニーズに対応したダイヤ・ルートの見直しを柔軟に行っている		引き続き利用者アンケートを実施し、ニーズ把握に努める。
次期地域公共交通計画について、持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待します	市民無作為抽出1,000人に対しアンケート実施 市内14か所合計15回の「公共交通に関する市民懇談会」実施	利用者ニーズを実現できるよう、来年度を始期とする次期公共交通計画の中で、持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組んでいく。
コロナ禍においても安心して公共交通を利用してもらえるよう、公共交通における新型コロナウイルス対策をPRすることにより、利用促進につなげられることを期待します	飛散防止フィルムの設置や、バス車内の消毒・清掃などを実施	他の利用促進策とともに、新型コロナウイルス感染症対策のPRを行っていく。

■ 地域の特性と背景

○本市は、市域の約92%が山林で、沿岸部には変化に富んだリアス式海岸が形成されるなど、豊かな自然環境に恵まれている一方、市街地周辺部には10ヶ所の集落が点在し、それぞれの地域において過疎高齢化が進行していることから、これらの各地域の公共交通をいかにして結ぶかが重要な課題となっている。

■ 地域公共交通網形成計画の目標及び期間

○目標 「人口減少時代にも持続可能な公共交通を確保し、定住促進・地域の活性化を目指す」

○期間 平成29年度～令和3年度

■ 公共交通の将来像

○基本方針

①地域ごとの特性に応じた公共交通網の形成とサービスの確保

②まちづくりと連携した総合的な地域公共交通の確保

○公共交通網見直しの方向性

- ・ 地域住民懇談会等での意見を踏まえ、現行ネットワークを基本に、ルート、ダイヤを見直す。
- ・ 集落支援員の活用など、地域主体の取り組みなどとの連携を図る。



主な内容

- バス車内、停留所において利用者アンケートを実施（毎年）【尾鷲市】
- ふれあいバスのルート・ダイヤの一部変更（随時、直近令和元年10月1日実施）【尾鷲市】
 - ⇒三木浦・三木里間の接続強化というニーズに対応
- 上記ルート・ダイヤ変更実施のたびに、時刻表チラシ（ふれあいバス、JR、路線バス・高速バス）を全戸配布【尾鷲市】
- ふれあいバス須賀利地区と三重交通島勝線との乗継割引（600円に平準化）【平成27年度、尾鷲市】
- 地元スーパーとの協賛事業（2,000円以上の買い物で200円のふれあいバス割引券を配布）【事業者】
- JR紀勢本線の利用促進【南紀・東紀州交通対策委員会】
- 尾鷲駅前広場ロータリーの車動線整備【平成29年度、尾鷲市、交通事業者】
- 免許返納によるふれあいバス運賃半額制度の実施【平成30年度、尾鷲市、交通事業者、警察】
- 尾鷲総合病院前のバス停用路側帯用地買収実施、工事開始【令和2年～3年度、尾鷲市、国土交通省】
- 市民無作為抽出1,000人に対しアンケート実施【令和2年～3年度、尾鷲市】
- 既存事業者、他の交通事業者、民間事業者、社会福祉協議会など関係団体と持続可能な交通体系の構築に向け検討を実施【令和2年～3年度、尾鷲市】
- スマートフォンアプリ「ミライロID」連携【令和3年度、尾鷲市】
- 市内14か所合計15回の「公共交通に関する市民懇談会」実施【令和3年度、尾鷲市】

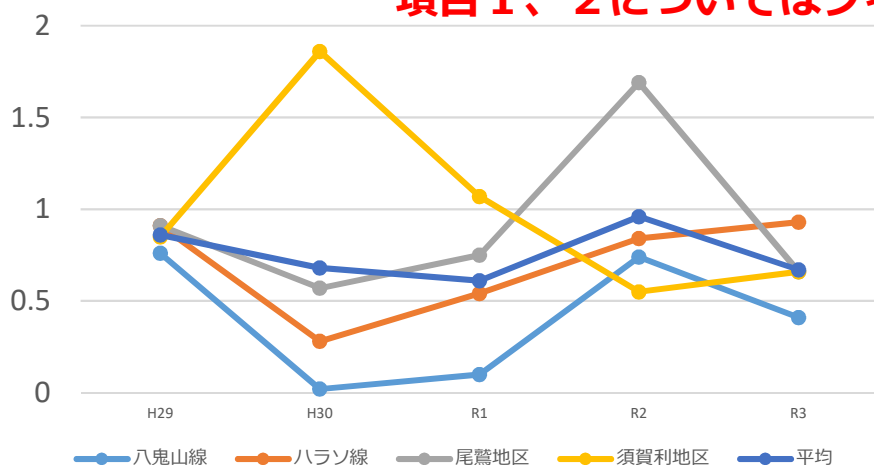


地域公共交通網形成計画（平成29年度～令和3年度）

(赤字は100%以上)

指標	路線	H29	H30	R1	R2	R3	目標値	
							フィーダー計画上のR3目標値(達成率)	目標値
1 ふれあいバスの利用者満足度	八鬼山線	0.76	0.02	0.10	0.74	0.41	0.70 (58.5%)	令和3年度 平均0.85 (平成27年度実績 の0.81より増)
	ハラソ線	0.91	0.28	0.54	0.84	0.93	0.80 (116.3%)	
	尾鷲地区	0.91	0.57	0.75	1.69	0.66	0.90 (73.3%)	
	須賀利地区	0.85	1.86	1.07	0.55	0.66	1.10 (60.0%)	
	平均	0.86	0.68	0.61	0.96	0.67	0.88 (76.1%)	
2 地区センター管内から尾鷲高校への通学確保	-	44% 8/18人	47% 8/17人	30% 3/10人	25% 1/4人	0% 0/1人	50% (0%)	令和3年度 30% (平成27年度実績 15%より増)

項目1、2についてはフィーダー計画の目標でもある



【評価】

項目1については、5年間の計画期間の推移の中で一次的に達成した年度はあるものの、須賀利地区以外は同じ傾向で推移しており、目標を下回る結果となった。須賀利地区の推移については、総合病院への直行便を設定し満足度が一時的に上がったが、現在では直行便の増便や路線の延長、停留所の増設など新たなニーズに対応できていないため目標を下回った。

項目2については、基本目標である「人口減少時代にも持続可能な公共交通を確保し、定住促進・地域の活性化を目指す」ためこれまで通学時間帯の便を確保しているが、地区センター管内の学生が急激に減少している。

令和3年度第3回尾鷲市地域公共交通活性化協議会（令和4年1月19日）で承認

4.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

6

地域公共交通網形成計画（平成29年度～令和3年度）

	指標	平成29年度 (達成率)	平成30年度 (達成率)	令和元年度 (達成率)	令和2年度 (達成率)	令和3年度 (達成率)	目標値
3	公共交通利用者数	ふれあいバス 56,171人 (98.5%) 路線バス 尾鷲長島線 輸送人員60,105人 (99.8%) 輸送量 16.5 (100%) 島勝線 輸送人員49,804人 (103.0%) 輸送量 16.8 (103.7%) 松阪熊野線 輸送人員34,112人 (100.3%)	ふれあいバス 52,558人 (92.2%) 路線バス 尾鷲長島線 輸送人員56,853人 (94.4%) 輸送量 16.5 (100.0%) 島勝線 輸送人員46,667人 (96.5%) 輸送量 15.6 (96.2%) 松阪熊野線 輸送人員32,603人 (95.8%)	ふれあいバス 55,604人 (97.5%) 路線バス 尾鷲長島線 輸送人員57,780人 (95.9%) 輸送量 15.8 (95.7%) 島勝線 輸送人員46,064人 (95.2%) 輸送量 15.1 (93.2%) 松阪熊野線 輸送人員32,557人 (95.7%)	ふれあいバス 47,351人 (83.1%) 路線バス 尾鷲長島線 輸送人員35,754人 (59.3%) 輸送量 9.2 (55.7%) 島勝線 輸送人員29,471人 (60.9%) 輸送量 9.5 (58.6%) 松阪熊野線 輸送人員19,082人 (56.0%)	ふれあいバス 年度途中 路線バス 尾鷲長島線 輸送人員31,400人 (52.2%) 輸送量 7.9 (47.9%) 島勝線 輸送人員22,797人 (47.1%) 輸送量 7.2 (44.4%) 松阪熊野線 輸送人員14,376人 (42.3%)	令和3年度 ふれあいバス 57,000人 (平成27年度の実績を維持) 路線バス (R3.10～R4.9) 尾鷲長島線 輸送人員60,197人 輸送量 16.5 島勝線 輸送人員48,351人 輸送量 16.2 松阪熊野線 輸送人員34,018人 (平成27年度の実績を維持)
4	ふれあいバスの尾鷲駅での乗降客数	7,804人 (84.3%)	9,219人 (99.5%)	9,526人 (102.8%)	8,013人 (86.5%)	年度途中	9,259人 (平成27年度実績8,052人の15%増)
5	ふれあいバスの観光拠点での乗降客数	4,380人 (100.1%)	4,361人 (99.6%)	4,758人 (108.7%)	5,112人 (116.8%)	年度途中	4,375人 (平成27年度実績3,805人の15%増)

(赤文字は100%以上)

【評価】

項目3、4は、公共交通相互の連携強化により地域の利便性を向上させるための指標である。3については、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者がふれあいバスにおいて約15%、その他路線で約30%以上も大幅に減少している。4については尾鷲駅での接続を考慮したダイヤ編成により、令和元年度に目標値を達成したが、令和2年度以降については大幅に減少している。

項目5については、熊野古道イベントに合わせた利用案内など、観光施策と連携してきたことで年々増加し、令和元年度に目標を達成した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されたものの唯一前年より増加している。

ニーズへの対応

○令和3年度の利用者アンケート調査においては、満足度の評価を、「運賃」、「本数」、「時間帯」、「経路」、「バス停位置」、「乗り継ぎのしやすさ」、「待合環境」の7項目に細分化し行なった。その中で最も多いニーズは、「本数」及び「時間帯」である。これらのニーズのうち最も要望が多いものは、一番活動の多い昼間の時間帯で、八鬼山・ハラソ線の2便と3便の間が、尾鷲地区では4便と5便の間が4～5時間程度の間隔があり、その不満が多いことがアンケートの回答や懇談会の意見などから分かった。

また、引き続き停留所の屋根やベンチの設置についても要望が多かった。

令和4年度を始期とする地域公共交通計画を策定し、より利便性が高く持続可能なダイヤ・ルートを目指していくなかで、上記ニーズの実現へ向け既存公共交通事業者と検討中であり、ニーズを取り入れた来年度中のダイヤ改正を目指し取り組む。

移設予定であった「尾鷲市病院前」停留所については、用地買収を行い現在工事中である。工事後、円滑に停留所の移設が行えるよう周知を徹底して行っていく。

また、他にイスの要望があったものについては、置くことが可能なスペースがあるものについては、丸太などを置き、地区によっては近隣の方の好意でこれにコンパネを打ちベンチ代わりにするなど、経費をかけずに出来ることから行うなど今後についても、利便性の向上に努めていく。



感染症対策と利用促進策

○令和元年度の終わりから令和2年度、そして現在もなお新型コロナウイルス感染症による影響が、大きく利用者の減少に現われている。

コロナ禍により大きく減少した利用者を何とか令和元年以前のベースに戻すため、利用促進を行っていく。公共交通に関する懇談会の中でも、時刻表の見方が分からなかったり、時刻表の見方が分かれば、便利に使うことができると分かった市民の方がいたことなどから、やはりまずは、今後「乗り方教室」を開催し、新型コロナウイルス感染症対策を実施していることなどの周知とともに、利用促進を図っていく。

また、そのような中でも伸びている「ふれあいバスの観光拠点での乗降客数」については、観光入込客数が激減していることから、他所の観光地へなかなか行くことができなかつた市内の方が、ふれあいバスを利用して「夢古道（温浴施設等）」など市内の観光地へ行ったことが推測される。今後は市内で行われるイベントなどについて、一層公共交通との連携を図るとともに、観光客が戻ってくることを予測し、ウィズコロナ・アフターコロナに向けた取り組みも検討していく。

持続可能な公共交通体系

○長期化するコロナ禍により、利用者が低迷しているなか、利用者の利便性の向上とともに、持続可能な公共交通体系や仕組みを構築する必要がある。

公共交通を持続可能なものとするために、安全・安心に利用できる乗車環境の仕組みや、公共交通のあり方について、事業者からの提案を踏まえ現在検討を行っている。今後は、住民・利用者ニーズを踏まえたダイヤ、路線の見直しを行なっていく。令和4年度以降は、次期公共交通計画に基づき、福祉、観光など他の分野と連携を深めながら、更に路線バス、鉄道、タクシーなど地域の交通を担う主体が持続的に共存共栄できるよう取り組みを進めていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 尾鷲市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通	尾鷲市コミュニティバス八鬼山線 尾鷲駅～三木浦～三木里駅 尾鷲駅～九鬼駅～コノワ正義山～三木浦～三木里駅	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。また、今年度は地域公共交通計画策定時でもあることから、項目を7つに細分化しニーズの詳細な把握を行った。また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。また、全路線において飛散防止フィルムの設置や、バス車内の消毒・清掃などを実施した。	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	B アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(0を基準とし最大値+2、最小値-2)、目標の0.70に対して0.41となり、目標を下回った。聞き取りから、昼間の便の間隔が他の便より空きすぎていることが考えられる。	引き続き利用者アンケートを実施し、ニーズ把握に努め、今後それらの利用者ニーズを実現できるよう、来年度を始期とする次期公共交通計画の中で、持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組み、八鬼山、ハラソ線を総合的に見直し、聞き取りなどで要望が上がった事項について来年度の改正を目指す。また、他の利用促進策とともに、新型コロナウイルス感染症対策のPRを行っていく。
三重交通	尾鷲市コミュニティバスハラソ線 尾鷲駅～三木里駅～梶賀瀬木山～三木里駅～梶賀	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。また、今年度は地域公共交通計画策定時でもあることから、項目を7つに細分化しニーズの詳細な把握を行った。また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。また、全路線において飛散防止フィルムの設置や、バス車内の消毒・清掃などを実施した。	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	A アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(0を基準とし最大値+2、最小値-2)、目標の0.80に対して0.93で、目標を達成した。	
尾鷲市	尾鷲市コミュニティバス尾鷲地区 尾鷲駅～天満堤防～紀伊松本 尾鷲駅～天満堤防・夢古道おわせ前～紀伊松本 尾鷲駅～夢古道おわせ前～紀伊松本 尾鷲駅～光ヶ丘～尾鷲駅	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。また、今年度は地域公共交通計画策定時でもあることから、項目を7つに細分化しニーズの詳細な把握を行った。また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。また、全路線において飛散防止フィルムの設置や、バス車内の消毒・清掃などを実施した。	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	B アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(0を基準とし最大値+2、最小値-2)、目標の0.90に対して0.66となり、目標を下回った。聞き取りから、昼間の便の間隔が他の便より空きすぎていることが考えられる。	引き続き利用者アンケートを実施し、ニーズ把握に努め、今後それらの利用者ニーズを実現できるよう、来年度を始期とする次期公共交通計画の中で、持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組んでいく。聞き取りなどのニーズの実現には1台のバスで尾鷲地区全体の運行を担っている現在の状態では課題があり、検討を行う。また、他の利用促進策とともに、新型コロナウイルス感染症対策のPRを行っていく。
尾鷲市	尾鷲市コミュニティバス須賀利地区 旧小学校前～漁協前～島勝 旧小学校前～漁協前～尾鷲総合病院	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。また、今年度は地域公共交通計画策定時でもあることから、項目を7つに細分化しニーズの詳細な把握を行った。また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。また、全路線において飛散防止フィルムの設置や、バス車内の消毒・清掃などを実施した。	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	B アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(0を基準とし最大値+2、最小値-2)、目標の1.90に対して0.55で、未達成となった。病院直通便の増便、路線の延長など対応できていないことが理由である。	引き続き利用者アンケートを実施し、ニーズ把握に努め、今後それらの利用者ニーズを実現できるよう、来年度を始期とする次期公共交通計画の中で、持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組んでいく。まずは、停留所の見直しなどを進め利便性の向上を図る。また、他の利用促進策とともに、新型コロナウイルス感染症対策のPRを行っていく。ニーズに対応できる

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	尾鷲市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は、市域の約92%が山林で、沿岸部には変化に富んだリアス式海岸が形成されるなど、豊かな自然環境に恵まれている一方、地区センター管内には10ヶ所の集落が点在し、それぞれの地域において過疎高齢化が進行していることから、これらの各地域の公共交通をいかにして結ぶかが重要な課題とされてきました。</p> <p>本市の公共交通機関は、鉄道、路線バス及びタクシーがその役割を担っています。鉄道はJR紀勢本線、路線バスは「長島線」、「島勝線」、「ふれあいバス尾鷲地区」、「ふれあいバス須賀利地区」、「ふれあいバスハラソ線」、「ふれあいバス八鬼山線」と、都市等を結ぶ長距離バスが運行されています。</p> <p>少子高齢化・過疎化等の理由により、本市の高齢化率は増加傾向にあり、通勤や通学で利用する人口も減少を続けており、公共交通サービスを維持確保していくためにはより多くの市民が公共交通を利用する必要があり、まちづくりと一体となった公共交通の利用促進が求められます。</p> <p>これを実現するために、市民ニーズに応じた生活交通を確保することを目的として、地域公共交通確保維持改善事業に取り組んでまいります。</p>